



san-etsu

糸のチカラで暮らしやすさを実現

山越 株式会社

世界と戦える企業へ
若手社員集団「能登7人の侍」の挑戦

ミッションは「世界初の糸」

世界初の糸を世に送るべく発足した、若手社員による新製品開発プロジェクト「能登7人の侍」。営業・電気・製造など、部署を越えた7人が名乗りを上げた。世界トップクラスの合繊機械メーカー「TMTマシナリー株式会社」とタッグを組み、夢の実現に向け日々邁進。「日本中を沸かせるような大きな仕事を」と意欲を燃やす。

山越のココがスゴい!

— STRONG POINT —

スゴPOINT
1

「糸」がつなぐネットワーク
世界を舞台に活躍できる職場

山越は、ポリエステル糸に風合いを持たせたり、編み・織りなどをしやすくする「仮撚(かりより)加工」の国内最大手企業。独自のネットワークを駆使し、用途に合った原料を中国やマレーシア、タイなど世界各国から買い付けている。原料買い付けや工場視察で海外に行く機会もあるなど、ビジネスの場は北陸だけにとどまらない。ベトナムから技能実習生を毎年受け入れており、身近に国際交流もできる。

スゴPOINT
2

国内トップクラスの生産量を
支える自動化工場とスタッフ

山越の工場は、省力化と高品質な糸の生産に向け、原料の搬入から加工、梱包、倉庫への搬出まで、検査以外の工程をオートメーション化しており、その設備は世界でも類を見ないほど。工場を支えているのが社員たち。社員の1割が機械の担当だ。また、機械について学べる機会も多く、自社で改造を行うなど機械に明るい人材が多いのも強み。その結果、月1300トンという国内トップクラスの生産量を誇っている。



スゴPOINT
3

社員のやる気を高める
情報のオープン化

国産自動車のシートやレースカーテン、医療用湿布に衣類…。山越の糸は、日常のさまざまな場面で用いられている。同社では「製品が分かると作る側のモチベーションが上がる」との思いから、加工機ごとに最終商品となる製品名を記し、自分たちが作った糸が何に使われるのか分かるようにしている。工場は同業者にもオープンにしており、繊維産業の活性化にも一役買っている。



「山越のスゴさ」聞いてみました

会社のすきなところ ♥

寮があるので
遠方の
出身者も安心!

BBQに夏祭り
たくさんの
社内行事

定時内での
業務完結を
会社主導で
推進

長野に
温泉付きの
保養所がある

山越を スゴくしている若きリーダーたち

山越の今をリードしている先輩社員が、仕事に求めることや新たな人材に求めることなど、それぞれの思いを語り合いました。

Shunsuke Sakai

製造部係長

酒井 俊介さん

2008年入社。工場で生産管理と品質管理を担当。小松市出身。家業も糸関係で、山越の生産量や設備の大きさに魅力を感じたという。大学では化学を学んだ。

Shunsuke Setou

販売部

瀬藤 俊介さん

2010年入社。織物・編物工場や商社に向いて営業を行っている。地元で貢献でき、人と関わる仕事を志望し山越に入社。大学では英語を専攻。金沢市出身。

Kouhei Yasue

開発部係長

安江 幸平さん

派遣社員として1年働いた後、2008年に正社員に。機械のメンテナンスを行う製造部工務を経て、2年前から現職。新しい糸の開発を行っている。法学部卒、内灘町出身。

若さと勢いがある会社、チャレンジ精神旺盛な風土

瀬藤:入社して、身近なところで山越の糸が使われていることに驚きました。たとえば医療用のベージュ色の湿布。車のシートもそう。普段職場では糸しか見ないのですが、自分が売った糸が製品となって市場に出ているのを見るとうれしくなります。

酒井:山越は1997年設立。歴史がそう長くないこともあるのか、物事の変化に対して柔軟なイメージがあります。繊維は斜陽産業と言われてはいますが、山越には成長を続けていて勢いがあります。社内行事が盛んで、社員の仲もいいですね。

安江:未来があり、若手にもチャンスがある会社です。仮撚加工だけでなく、屋外型グリーンカーテンの企画・開発・製造などいろんなことにチャレンジしていたり、大企業と取引や連携していることも強みです。

酒井:我々3人も加わっているプロジェクト「能登7人の侍」もひとつの挑戦です。コンセプトは「世界初の糸をつくること」。現在は安江さんが試作機で基礎的な糸の条件を作っている段階。完成すれば、その機械も世界初となり、ぼくたちが第一人者になれるので意気込みも大きいです。



糸をつくる楽しさ、仕事を通じて広がる出会いと知識

安江:糸の開発は大変ですが、やりがいがあります。自分が良いと判断しても、お客様が良しとするとは限りません。また、お客様の声から新しい糸が生まれることもあり、それが楽しみでもあります。まだまだ

勉強不足な面がありますが、なるべく早く判断し、先を読むことを意識して行動しています。

瀬藤:外回りを通じて、織物や編み物、染めなど糸にまつわる知識を身に付けることができます。また、考えが近い人、異なる人と、たくさんのお会いのなかから情報を取り込めるので、人間として強くなれ、レベルアップができるんじゃないかと感じています。

酒井:山越は40代くらいの中世代が少ないので、年齢以上のことをさせてもらえます。失敗しながらですが、人を動かすために物事をどう伝えるかという自己主張の部分で成長したと思います。ずっと工場内で仕事をと思っていましたが、品質管理や工場視察など、意外と海外に行く機会が多いです。日本にいただけでは分からないことも多く、良い刺激ももらっています。

瀬藤:展示会には海外のお客さまもいらしゃるので、国内の仕事でも英語を使う機会があります。また、政治経済の知識もあった方がいい。営業先で話題に上ることが多いので、好奇心があって、ものづくりが好きな人が山越には向いていると思います。

安江:山越に勤めるなら、語学は大事かな。就職するとなかなか時間が取れないので、いろんな環境に向いて、知識や経験を身に付けるといいと思います。

